

龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議（第2回）議事要旨

- 1 日時：平成25年7月22日（月）14時～16時
- 2 場所：龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室
- 3 議題：（1）前回の協議内容について
（2）公共施設の現状把握の手法について
- 4 出席者：
委員：藏田委員長、西尾委員、岡田委員、志村委員、松尾委員、飯田委員、龍崎委員
（欠席 倉斗副委員長）
事務局：【企画課】島田課長補佐（行政改革推進グループリーダー）、小林主幹、関口主幹
【アドバイザー】PHP総研 佐々木氏

5 議事要旨

「（1）前回の協議内容について」龍ヶ崎市の地域の特性について事務局からの説明の後、「（2）公共施設の現状把握の手法について」西尾委員、岡田委員、志村委員から説明があった後、議論が行われた。委員の発言の要旨については以下のとおり（議事録については別途公開する）。

▼龍ヶ崎市の状況を見ると高齢化などのエリアを一概に色分けができないとみている。地域の実情に合わせるべきだと考える。

▼わがまちプロフィールを見て議論するのはよいが、追求しすぎると各地域にフルスペックの公共施設が必要になってしまうので、広域的な議論が必要と感じる。

▼さいたま市では、公共施設マネジメント白書を毎年更新で公表しているところが特徴である。毎年更新するのはマネジメントツールとして必要と考えているからで、悪い方向に動いている場合には、白書を活用して改善できると考えている。

▼白書の更新には労力やコストもかかるので、それらを抑える工夫も必要と考える。

▼白書の出力結果と入力用のフォーマットを同じ形にし、毎年入れ替える必要のないデータはあらかじめ事務局で入力している。各課から送られてくるデータを事務局で取りまとめ、マクロ集計し自動的に出力をしている。

▼秦野市では、1年おきに施設の状況を把握している。A4用紙1枚の表裏に「サービス情報」と「コスト情報」を記入できる書式にし、所管課で入力をしている。

▼将来的には保全データが入ったものも作りたいが、現状ではいれていない。

▼調書の作成時に留意したのはなるべく所管課の手を煩わせないということである。特にコスト情報は予算科目の分類のまま記入欄を設けた。あえて言うと、固定費と変動費を分けて考えられるように作成したほうが良かったと感じている。

▼このような先人の失敗を取り入れ、自分達の目指すゴールを考えて作っていくべきである。

▼習志野市では、平成21年度に白書を作成し、平成23年度にデータ編を作成した。

▼自治体は何をもって公共施設の再編成が成功なのかのベンチマーキングがしづらいため、成功したかどうか掴みにくい。市民にどのように見せていくのか、評価していくのかを検討している。

▼さいたま市では、評価することはあまり考えていない。データは細かく取ったほうが分析はしやすい。ただし、新たなデータを取ることは現場の負担感が強い。

▼指定管理者制度導入の中で、コマ別、部屋別の利用状況を把握できる状況が整っている。また、公共施設予約システムも同様に利用状況を把握できるので活用している。

▼今後、公共施設の広域的利用を検討する場合には、各施設の同じ機能（例えば会議室）の稼働状況を把握しておくような細かい情報が必要になり、どのようなデータが必要かと考えることも重要である。

▼情報をPDCAサイクルで見て更新していくことも必要だが、新たな面が見えないと義務感だけになってしまう。

▼部屋の稼働状況のデータを持っていると課題が見えてくることがある。また、利用者の声に対して、きちんと説明することが可能になる。できれば所管課の手を煩わせることなく、既存のものを最大限活用することが望ましい。

▼何を指してデータを取るか、そのデータをどのように使うかがもっとも重要である。

▼公共施設再編成の取り組みは「ファシリティマネジメント（FM）」「財政問題」という2つの入口がある。FMでコストを絞りきってから公共施設再編成にという形と、財政的な問題から入りFMの視点も必要という2つの形がある。

▼FMは「質の見直し」、PREは「量の見直し」という両方の視点から龍ヶ崎市は公共施設を見ていく必要がある。

▼龍ヶ崎市はこれ以上、施設の管理運営経費を絞ろうとしても出てこないレベルである。これは秦野市と一緒にいる。これから先は新たな発想で公共施設再編成を実行しなければいけない。そのような視点でデータ収集をする際に何が必要かを考えるべきだが、現段階では難しい。

▼予防保全をすれば、それで足りるかということそうではない。公共施設再編成のために財政の視点は外せない。

▼龍ヶ崎市が注力すべき場所は総延床面積の6割を占める学校である。一般に学校の統廃合はマイナスのイメージがつきまとうが、そうではない。習志野市では「学校を地域の拠点」としてどのように扱っていくかということに注力している。